

〈研究ノート〉

学童保育指導員の仕事と役割に関する質問紙調査報告

大谷直史・柿内真紀・石本雄真

A Report on Nationwide Survey of After School Child Care Workers

OOTANI Tadasu, KAKIUCHI Maki, ISHIMOTO Yuma

キーワード：親密圏，生活の場

Key Words: Intimate Sphere, Living Place

1 はじめに

学童保育¹は、放課後児童健全育成事業として法整備がなされ（2014年）、支援の単位ごとに職員を2名以上配置すること（従うべき基準）、支援の一単位の児童数が40名以下（参酌すべき基準）とすること²、放課後児童支援員認定資格が創設されたことなど、状況は大きな変容の渦中にある。その一方で全国の学童保育数、利用者数は着実に拡大を続け、2018年5月1日現在の学童保育登録児童数は、1,234,366人、学童保育数は25,328か所（支援の単位数31,643単位）となっている。小学校低学年においては約3割の児童が利用している計算となり、かなり一般化してきた学童保育であるが、保育所のような最低基準はなく、そこで働く指導員の資格や待遇も市町村によって大きく異なっているのが現状である。そもそも学童保育が利用できない（小学校区に存在しない）所もあり、運営主体も多様で、利用料や利用時間なども市町村間・施設間の格差は大きいことが推察される。

本報告は、学童保育の内実（具体的に何が行われ、その場でどのような関係性が構築されているのか）を全国的な規模で明らかにすることを目的として行われた「学童保育（放課後児童クラブ）指導員の仕事と役割に関する質問紙調査」（2018年2月）を基礎資料としてまとめたものである。この調査は2013年2月に第1回調査が実施され、その5年後にあたる昨年、同じ調査方法・内容を用いて実施されたものである。比較のために、両調査の結果を併記する。

この調査を貫く問題意識は、「生活の場」としての学童保育はいかなる内実を持っているのか、持つべきであるのかという点にある。その内実は、「生活の場」の施設条件や提供されるサービスの内容にとどまらず、指導員の意識、とりわけ指導員と児童との関係性に着目している。というのも、そこが「生活の場」と称する以上、権利に基づいて場が提供されていることに加え、愛に基づいた親密な関係性が紡ぎ出されているはずだと想定できるからである。こうした関係性を明らかにする課題は、指導員に限られない。保育士や看護師・介護福祉士・教員など、いわゆる感情労働を行うあらゆる労働者に通ずるものである。一連の調査は、この関係性が生ずる場を親密圏³として、その可能性を学童保育に探し当てようとするものである。

こうした問題意識ゆえに、指導員や子どもの呼称、感情的表出をはじめ学童保育を家庭に見立てた設問も設けられている。それぞれの集計を確認する際にこの点に触れることとする。おおむねこの5年間の変化は少なく、またその変化も制度的な変容に伴うものなのか、回答者の属性の違いによるものなのか判断が難しい。こうした点も含めて、より詳細な分析、とりわけ意識構造を明らかにし、学童保育及び指導員を類型化する分析は別稿を準備している。

2 方法

調査月、対象の選定方法は第1回調査に準じ、設問は放課後児童支援員の資格名称を加えるのみで、その他の変更はなく行われた。また施設調査は、支援の単位を対象とした。詳細は表2-1の通りである。

表2-1. 調査方法

	第1回	第2回
調査期間	2013年2月1日～3月31日	2018年2月1日～3月31日
調査対象	市町村ホームページ等より全国の学童保育リスト(18,791件)を作成し、無作為に2000クラブを抽出。それぞれ施設調査票1部、指導員調査票4部を同封し、個別に返送を依頼。指導員調査については、勤務時間の長い順に4名までを依頼。	市町村ホームページ等より全国の学童保育リスト ⁴ (21,933件)を作成し、無作為に2000クラブを抽出。それぞれ施設調査票1部、指導員調査票4部を同封し、個別に返送を依頼。指導員調査については、勤務時間の長い順に4名までを依頼。
回収率 [*]	施設調査29.8%(有効回答数591票)、指導員調査24.5%(有効回答数1971票、内施設調査との連動1731票)。	施設調査23.2%(有効回答数464票)、指導員調査20.6%(有効回答数1649票、内施設調査との連動1391票)

^{*}4名未満の指導員体制の学童保育の場合は、回収率の母数からは省かれるのであるが、その確認がとれないことから、そのまま回収率を計算している。

3 調査結果

調査結果は、調査年(2013年、2018年)ごとの割合(%)を示している。特別な表記がない限り、各調査年のサンプル数(n)は1971件(2013年)、1649件(2018年)である。調査結果は質問紙のすべての設問の順に示し、必要に応じて2018年調査のクロス集計を掲載する。

1) 施設調査

設立年は表3-1-1の通り、2000年代が32.3%と最も多い。第1回調査と比較すると、10年以内に設立された2010年代が増加している。

表3-1-1. 設立年 (%)

	1979年以前	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	無回答	合計
2013年	9.6	9.1	19.6	44.3	10.7	6.6	100.0
2018年	8.4	10.1	15.9	32.3	22.0	11.2	100.0

運営主体(表3-1-2)は、市町村の設置運営が42.7%と最も多いが、第1回調査からは7.4%減少し、NPO、その他が増加している。民間企業は、そもそもリスト作成時の捕捉率が低いと思われるが、実数では9件の回答があった。

表3-1-2. 運営主体 (%)

	市町村 (公設 公営)	社会福 祉協議 会	地域運 営委員 会	保護 者会	私立幼稚 園(学校 法人)	私立保育園 (社会福祉 法人)	NPO	民間 企業	その 他	無 回 答	合計
2013年	50.1	5.9	13.7	10.3	-	5.6	4.4	-	9.0	1.0	100.0
2018年	42.7	6.3	12.3	9.9	1.1	6.3	8.0	1.9	11.6	0	100.0

設置場所(表3-1-3)は、学校敷地内の専用施設が24.8%と最も多く、空き教室、空き教室以外の学校施設を加えると、約半数が学校内ということになる。

表3-1-3. 設置場所 (%)

	学校敷地 内の専用 施設	空き教 室	空き教室 以外の学 校施設	児童 館	保育 園・幼 稚園	地域の中 の専用施 設	地域の中 の民家・ アパート	その 他	無 回 答	合計
2013年	22.3	21.5	5.9	13.5	4.4	12.0	3.9	15.4	1.0	100.0
2018年	24.8	18.5	5.0	13.8	5.0	12.5	6.3	13.4	0.9	100.0

学校外への出入りにおける裁量について尋ねた結果が表3-1-4である(学校内に設置の場合のみ回答)。第1回と比べて、自由にできないとする回答が15.6%増加している。この設問は、近隣の公園等へ自由に外出できるかどうかを尋ねたものであり、それが学校でのきまりや上部機関等による制約を受けているかどうかを検討するためのものである。5年間で差異の大きかった設問の一つである。

表3-1-4. 「お出かけ等の学校外への出入りについて、学童保育の裁量で自由に行うことができますか」 (%)

	できる	できない	無回答	合計	n
2013年	57.3	38.0	4.7	100.0	300
2018年	45.1	53.6	1.3	100.0	224

専用で有している設備(表3-1-5)は、すべてが第1回調査よりも増加している。トイレは最も多く、61.3%から71.1%と増加している。職員室、体育館、図書室は、児童館で行われている学童でのみ半数を超え、シャワーは地域の中の民家・アパートが最も保有率が高い(38%)など、設置場所によって専用施設の条件は大きく異なっている。

表3-1-5. 専用設備

	トイレ	調理室 (台所)	職員 室	庭	ホール (体育館)	図書 室	シャワ ー	グラウ ンド	保健室*	合計
2013年	61.3	45.9	24.2	21.0	12.9	15.1	12.0	8.6	4.9	100.0
2018年	71.1	48.1	27.6	23.9	18.1	16.6	13.6	11.6	6.9	100.0

*2013年は「相談室」

面積(表3-1-6)も第1回と比べて増加している所が多くなっている。

表3-1-6. 面積

	40㎡ 未満	40~60㎡ 未満	60~80㎡ 未満	80~100 ㎡未満	100~150 ㎡未満	150~200 ㎡未満	200㎡ 以上	無回 答	合計
2013年	5.9	9.0	14.6	13.5	16.4	8.1	12.9	19.6	100.0
2018年	3.9	7.3	11.6	9.1	15.1	6.5	15.9	30.6	100.0

利用料(表3-1-7)は、「4000~6000円未満」と「6000~8000円未満」が同数で最も多い(各23.1%)。市町村(公設公営)に限れば、「4000~6000円未満」が最も多く(29.2%)、運営主体が私立幼稚園、NPO、民間企業のケースで利用料が高くなる傾向がある(表3-1-8)。

表3-1-7. 利用料(月額)

	2000円 未満	2000~ 4000円 未満	4000~ 6000円 未満	6000~ 8000円 未満	8000~ 10000円 未満	10000円 以上	無回 答	合計
2013年	7.8	16.6	22.7	27.2	7.6	15.6	2.5	100.0
2018年	9.9	13.8	23.1	23.1	9.7	18.5	1.9	100.0

表3-1-8. 運営主体別利用料(2018年, 無回答を除く)

	2000円 未満	4000円 未満	6000円 未満	8000円 未満	10000円 未満	10000円 以上	合計
市町村(公設公営)	15.6	22.9	29.2	24.0	6.3	2.1	100.0
社会福祉協議会	6.9	10.3	37.9	20.7	13.8	10.3	100.0
地域運営委員会	1.8	3.6	16.1	46.4	7.1	25.0	100.0
保護者会	0.0	4.3	19.6	17.4	10.9	47.8	100.0
私立幼稚園(学校法人)	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	100.0
私立保育園(社会福祉法人)	3.6	7.1	25.0	21.4	25.0	17.9	100.0
NPO	2.7	8.1	10.8	10.8	16.2	51.4	100.0
民間企業	0.0	11.1	22.2	0.0	22.2	44.4	100.0
その他	20.8	13.2	15.1	18.9	9.4	22.6	100.0
合計	10.1	14.1	23.5	23.5	9.9	18.9	100.0

補助金割合（表3-1-9）は「6～8割未満」が最も多く、18.3%となっている。

表3-1-9. 補助金割合

	0～2割 未満	2～4割 未満	4～6割 未満	6～8割 未満	8～10割 未満	10割	無回答	合計
2013年	7.8	3.9	13.2	15.1	6.6	13.0	40.4	100.0
2018年	4.1	2.6	13.4	18.3	8.0	11.9	41.8	100.0

定員を設定している所が67.2%から75.6%に増加している（表3-1-10）。

表3-1-10. 定員の有無

	ある	ない	無回答	合計
2013年	67.2	30.3	2.5	100.0
2018年	75.6	22.2	2.2	100.0

定員数（表3-1-11）は、「40～50人未満」が最も多く、29.9%となっている。新規設置の場合は定員を支援の単位ごとに40名としているケースが増加したためと考えられる。しかし「50～60人未満」が6.3%、それ以上のケースを合わせると38.7%が50名よりも多くなっている。むしろ80人以上の定員のケースは増加している。

表3-1-11. 定員数（定員があるとした351件のみ）

	1～ 10人 未満	11～ 20人 未満	20～ 30人 未満	30～ 40人 未満	40～ 50人 未満	50～ 60人 未満	60～ 70人 未満	70～ 80人 未満	80～ 90人 未満	90～ 100人 未満	100人 以上	無回 答	合計
2013年	0.2	3.2	9.2	14.1	17.5	13.1	13.6	11.2	3.6	2.2	4.1	8.0	100.0
2018年	0	1.7	8.3	15.7	29.9	9.7	6.3	5.1	5.1	2.6	10.0	5.7	100.0

実際の利用者数（表3-1-12）も、定員とほぼ同じ動向を示している。最も多いのは「30～40人未満」の16.4%であるが、「50～60人未満」が9.9%、それ以上のケースを合わせると38.4%となっている。

表3-1-12. 子ども数

	0人	1～ 10人 未満	11～ 20人 未満	20～ 30人 未満	30～ 40人 未満	40～ 50人 未満	50～ 60人 未満	60～ 70人 未満	70～ 80人 未満	80～ 90人 未満	90～ 100人 未満	100 人以 上	無回 答	総計
2013年	1.4	3.2	11.7	16.1	14.6	14.9	11.5	8.1	3.2	2.7	1.5	4.4	6.8	100.0
2018年	0	2.6	9.1	12.9	16.4	13.6	9.9	5.8	5.2	4.7	2.4	10.3	7.1	100.0

指導員数（表3-1-13）は、1人がなくなり、10人以上とする回答が大幅に増加している。この影響もあり、指導員当たり子ども数もやや減少している傾向が見られる。最も多いのは、「5～10人未満」の38.6%となっている。

表3-1-13. 指導員数

	1人	2人	3人	4人	5人	6～10 人未満	10人以 上	無回答	合計
2013年	2.9	15.1	22.3	14.9	15.7	22.2	3.7	3.2	100.0
2018年	0.0	11.0	19.2	19.0	11.6	24.4	13.4	1.5	100.0

表3-1-14. 指導員当たり子ども数

	5人未満	5～10人未満	10～15人未満	15～20人未満	20人以上	無回答	合計
2013年	11.3	33.2	31.6	8.8	5.6	9.5	100.0
2018年	10.6	38.6	29.5	9.5	4.5	7.3	100.0

正規職員の割合（表3-1-15）は、「0%」が44.6%と、2013年よりは減少しているものの、約半数が非正規のみとなっている。

表3-1-15. 正規職員割合

	0%	1%以上 25%未満	25%以上 50%未満	50%以上 75%未満	75%以上 100%未満	100%	無回答	合計
2013年	50.6	0.0	19.3	16.6	3.0	7.3	3.2	100.0
2018年	44.6	6.7	17.0	18.8	4.1	7.3	1.5	100.0

学童保育で行われている取り組み(表3-1-16)はおおむね増加傾向にある。とりわけ「学校の宿題をすること」は「いつも行っている」が7.1%増加している。

表3-1-16. 「あなたの学童保育では子どもたちに対して以下のような取り組みをどの程度行っていますか」

	いつも 行っ てい る	どちらか と い え ば 行 っ て い る	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば 行 っ て い ない	全 く 行 っ て な い	無 回 答	合 計
2013年							
学校の宿題をすること	75.9	14.8	4.4	1.0	0.5	3.4	100.0
「ただいま」とあいさつすること	71.0	17.2	4.6	2.9	0.5	3.9	100.0
子どもの好きな遊びを自由にさせること	58.3	28.3	7.9	1.3	0.3	3.7	100.0
学校で決められたきまりを守ること	53.1	31.2	9.6	1.5	0.2	4.4	100.0
一日の流れを意識して活動すること	44.2	36.3	11.3	3.0	1.2	4.0	100.0
異年齢の関わる活動をする	41.1	38.4	11.6	3.4	1.9	3.5	100.0
子どもとスキンシップをとること	42.8	34.1	14.3	4.0	0.5	4.2	100.0
子どもがごろごろできる時間・空間を作ること	32.9	31.5	18.2	8.4	5.2	3.7	100.0
目的・目標のある活動をさせること	18.2	39.6	24.1	9.4	4.6	4.0	100.0
長期間の見通しを持った継続的な活動をする	21.1	28.8	28.8	11.0	5.4	4.9	100.0
みんなで同じ遊びをすること	11.5	34.9	34.2	13.0	2.5	3.9	100.0
スポーツや芸術活動に取り組むこと	14.5	31.5	22.4	11.5	16.0	4.0	100.0
掃除を子どもたちがすること	17.4	19.7	17.0	27.8	14.3	3.7	100.0
子どもが指導員に対して敬語を使うこと	8.3	25.3	31.2	20.2	11.1	3.9	100.0
学童以外の子ども(友だち)と遊ぶこと	16.5	18.7	22.1	14.8	24.1	3.7	100.0
キャンプ等の行事に取り組むこと	13.7	15.7	9.4	8.6	48.1	4.6	100.0
手作りのおやつを出すこと	6.3	22.7	9.1	17.8	40.3	3.9	100.0
動植物の飼育・栽培をすること	6.4	14.8	14.8	17.2	42.8	3.9	100.0
一日保育の際に、昼食をみんなで作ること	4.7	9.8	6.9	18.4	56.3	3.9	100.0
2018年							
学校の宿題をすること	83.0	11.6	2.6	0.4	0.6	1.7	100.0
「ただいま」とあいさつをすること	68.8	20.7	5.8	1.7	1.5	1.5	100.0
子どもの好きな遊びを自由にさせること	58.4	30.6	7.1	1.3	0.6	1.9	100.0
学校できめられたきまりを守ること	54.7	30.2	11.2	1.3	0.9	1.7	100.0
1日の流れを意識して活動すること	48.5	35.8	10.8	1.7	0.6	2.6	100.0
異年齢の関わる活動をする	46.8	37.7	9.9	2.6	0.9	2.2	100.0
子どもとスキンシップをとること	43.5	33.8	15.5	4.1	0.6	2.4	100.0
子どもがごろごろできる時間・空間を作ること	30.8	36.2	15.9	10.3	4.5	2.2	100.0
目的・目標のある活動をさせること	19.2	41.6	25.0	9.5	2.6	2.2	100.0
長期間の見通しを持った継続的な活動をする	24.1	29.5	33.2	5.2	4.5	3.4	100.0
みんなで同じ遊びをすること	12.9	37.7	33.2	11.9	1.9	2.4	100.0
スポーツや芸術活動に取り組むこと	17.0	30.6	23.7	12.5	12.9	3.2	100.0
掃除を子どもたちがすること	20.3	20.5	17.5	25.0	14.9	1.9	100.0
子どもが指導員に対して敬語を使うこと	7.3	25.6	34.3	19.0	11.0	2.8	100.0
学童以外の子ども(友だち)と遊ぶこと	14.4	19.6	18.5	15.5	29.1	2.8	100.0
キャンプ等の行事に取り組むこと	15.3	16.8	8.8	9.1	47.6	2.4	100.0
手作りのおやつを出すこと	5.8	22.6	8.4	13.6	47.4	2.2	100.0
動植物の飼育・栽培をすること	7.3	15.3	14.7	14.7	44.4	3.7	100.0
1日保育の際に、昼食をみんなで作ること	4.1	8.2	10.1	15.9	59.5	2.2	100.0

「いつも行っている」～「全く行っていない」を5～1点で得点化し、2018年調査の平均値降順に並べ替え。

実施している行事（表3-1-17）は、種類によって増減しているが、卒業式、入学式、帰りの会など学童保育に固有の行事が減る傾向にある。

表3-1-17. 「あなたの学童保育単独で行っている行事に「○」をつけて下さい」

	クリスマス	誕生日会	卒業式 (送る会)	入所式	七夕	帰りの会 (毎日)	キャンプ	バザー
2013年	71.6	58.7	56.2	42.8	36.4	23.0	11.0	6.9
2018年	72.6	62.5	48.3	39.4	36.2	20.3	14.7	8.0

「中抜け」は学童保育からの外出のことを指しているが、この設問は、学童保育が家庭であるとするならば当然できるであろう外出が可能かどうかを尋ねようとしたものである（表3-1-18）。2013年と比べ「できる」とする回答が5.6%増加している。運営主体別では、私立保育園（75.9%）、NPO（70.3%）、保護者会（69.6%）の順に高い。

表3-1-18. 「あなたの学童保育では、中抜け（学童保育から習い事等に出かけ、戻って来ること）が可能ですか」

	できる	できない	無回答	合計
2013年	49.6	47.2	3.2	100.0
2018年	55.2	42.9	1.9	100.0

保護者会に関する設問で、保護者会の実施（表3-1-19）では、6.7%実施率は下がり、60.8%の実施率となっている。その保護者会への指導員の業務での参加（表3-1-20）はほぼ行われており、実施場所も学童保育の実施場所で行われているケースが9割近い（表3-1-21）。

表3-1-19. 「あなたの学童保育では、保護者会が行われていますか」

	行われている	行われていない	無回答	合計
2013年	67.5	31.1	1.4	100.0
2018年	60.8	37.7	1.5	100.0

表3-1-20. 「保護者会には、指導員が参加しますか」（保護者会が実施されている場合）

	業務として参加している	業務外で参加している	参加していない	無回答	n
2013年	85.2	9.8	3.0	2.0	399
2018年	90.0	4.8	3.1	2.1	282

表3-1-21. 「保護者会は、学童保育の実施場所で行われていますか」

	はい	いいえ	無回答	合計
2013年	91.2	7.5	1.3	100.0
2018年	89.0	9.0	2.1	100.0

学童保育指導員の研修として代表的と思われる事例検討会の実施について尋ねた結果が表3-1-22である。2013年と比べてやや（2.7%）減少しているが、多くの学童保育で実施している（79.7%）と回答された。

表3-1-22. 事例検討会の実施

	している	していない	無回答	合計
2013年	82.4	15.6	2.0	100.0
2018年	79.7	17.5	2.8	100.0

2) 指導員調査

前回調査からは、男性がやや増加し（6.8%→9.9%）、60歳以上が大幅に増加した（14.0%→25.6%）。

表3-2-1. 性別構成

	女性	男性	無回答	合計
2013年	92.7	6.8	0.5	100.0
2018年	89.8	9.9	0.2	100.0

表3-2-2. 年齢構成

	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上	無回答	合計
2013年	0.2	3.0	7.6	5.1	6.2	8.3	13.0	22.3	20.0	14.0	0.4	100.0
2018年	0.2	2.8	5.6	6.3	4.8	8.9	10.4	15.6	19.8	25.6	0.1	100.0

所有している資格(表3-2-3)は、放課後児童支援員認定資格の創設により、同資格が61.2%となった。その他の資格はほぼ変わらない。

表3-2-3. 所有資格(複数回答)

	放課後児童支援員	幼稚園教諭	小学校教諭	中学校・高等学校教諭	保育士	児童厚生員	看護師	なし
2013年	—	29.4	13.2	18.9	28.7	6.0	0.7	30.2
2018年	61.2	26.4	12.4	17.8	27.3	1.9	0.6	15.7

雇用形態(表3-2-4)は施設調査と同じく、「正規職員」がやや増加し、32.4%となった。その他では嘱託職員の記載が多い。

表3-2-4. 雇用形態

	正規職員	非正規職員	その他	無回答	合計
2013年	27.2	67.8	2.4	2.6	100.0
2018年	32.4	51.1	13.6	2.9	100.0

経験年数(表3-2-5)、勤続年数(表3-2-6)ともに、「1～3年未満」と10年以上が増加している。

表3-2-5. 指導員の経験年数

	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	無回答	合計
2013年	4.0	17.4	19.0	33.3	21.9	4.4	0.6	100.0
2018年	2.9	20.3	17.6	26.7	26.4	5.6	0.6	100.0

表3-2-6. 現在の職場での勤続年数

	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	無回答	合計
2013年	4.0	17.3	18.6	33.1	22.0	4.4	0.6	100.0
2018年	2.9	20.3	17.6	26.7	26.4	5.6	0.6	100.0

週当たり労働日数(表3-2-7)は、2013年と同じく、5日以上が多数を占めている(67.8%)。

表3-2-7. 週当たり労働日数

	1～2日	3日	4日	5日以上	無回答	合計
2013年	1.6	16.9	16.4	65.0	0.2	100.0
2018年	5.9	10.5	15.7	67.8	0.1	100.0

年収は表3-2-8の通り、正規職員で「150～200万円未満」の層、非正規職員で「100万円未満」の層が多く、2013年からはやや年収が増加している。

表3-2-8. 「あなたの指導員での年収(時間外手当を含む税込支給総額)はいくらですか」

		100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400万円以上	無回答	合計
2013年	正規職員	19.3	20.4	18.7	12.9	8.2	4.9	2.6	9.5	3.6	100.0
	非正規職員	49.4	30.7	9.7	6.2	1.3	0.5	0.1	0.2	1.8	100.0
2018年	正規職員	11.6	18.9	20.2	19.3	7.9	7.5	3.9	6.0	4.9	100.0
	非正規職員	41.9	35.8	13.3	6.2	1.3	0.4	0.2	0.1	0.8	100.0

指導員の仕事を選んだ一番の理由を尋ねた結果が表3-2-9である。5年前と全体の傾向は大きく変わらず、「子どもが好きだから」を選択したものが35.4%となっている。

表3-2-9. 「あなたが指導員の仕事を選んだ理由として最もふさわしいもの」(1つのみ)

	子ども が好き だから	資格・知 識を活か したいか ら	働き甲 斐があ りそう だから	家庭と両 立できる 仕事だか ら	労働条 件がよ かった から	他に仕 事がな かった から	他にする人 がいなかつ たから(頼 まれて)	そ の 他	無 回 答	合計
2013年	35.8	13.4	11.0	14.1	2.2	2.3	7.8	11.2	2.1	100.0
2018年	35.4	13.9	9.8	12.1	2.7	2.6	10.8	11.7	1.0	100.0

仕事の内容への満足(表3-2-10)、労働条件への満足(表3-2-11)も大きな変化はない。「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて、仕事内容への満足は84.7%であるのに対し、労働条件については56.1%と満足と不満足が拮抗している。

表3-2-10. 「今の仕事の内容に満足していますか」

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	合計
2013年	20.9	65.4	10.3	1.7	1.7	100.0
2018年	21.3	63.3	11.9	1.6	1.9	100.0

表3-2-11. 「今の給与等の労働条件に満足していますか」

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	合計
2013年	12.8	45.4	30.3	9.9	1.7	100.0
2018年	12.6	43.5	31.0	10.7	2.2	100.0

学童保育が「生活の場」であるとするならば、それは指導員にとっても「生活の場」であることを意味するのだろうか。それが本調査を貫く問であった。職場でリラックスできるかどうか(表3-2-12)は、それを捉えようとする設問の一つである。前回と比べて「どちらかといえばできていない」(27.2→31.6%)、「できていない」(9.7→10.1)と、できていないとする割合がやや増加している。

表3-2-12. 「学童保育であなたはリラックスした時間を過ごすことができますか」

	できている	どちらかといえば できている	どちらかといえ ばできていない	できていない	無回答	合計
2013年	13.4	47.0	27.2	9.7	2.7	100.0
2018年	12.7	43.7	31.6	10.1	1.9	100.0

呼称はそれを呼び合う者同士の関係性を象徴している部分がある。そうした側面から学童保育における指導員と子どもの関係性を把握しようとした設問である(表3-2-13)。子どもから指導員への呼称(表3-2-13)は、苗字に「先生」をつけるとする回答が最も多く(58.0%)、全体としての傾向は変わらない。指導員から子どもへの呼称(表3-2-14)も大きくは変わらず、「ちゃん/くん」付けが最も多い(55.1%)。

表3-2-13. 「あなたは学童保育で子どもからどのように呼ばれることが多いですか」

	「先生」のみ	〇〇先生	〇〇さん	ニックネーム	その他	無回答	合計
2013年	8.6	55.4	5.0	19.0	12.0	0.9	100.0
2018年	9.2	58.0	4.3	17.9	9.7	0.9	100.0

表3-2-14. 「あなたは学童保育で子どもをどのように呼ぶことが多いですか」

	〇〇ちゃん/くん	〇〇さん/くん	〇〇さん/さん	呼び捨て	ニックネーム	その他	無回答	合計
2013年	59.1	14.8	5.0	6.8	2.2	11.1	1.0	100.0
2018年	55.1	16.7	6.5	9.2	1.6	10.2	0.7	100.0

具体的な子どもとの関わりの中で、どのような行為が子どもとの親密な関係性を象徴するだろうか。専門家として、あるいは権威を表示することもあるのだが、相談にのることも、親密な関係性を表明する事象である。表3-2-14は「子どもの悩みを聞き、相談にのること」の頻度を尋ねた設問の結果であり、「よくある」(16.6%)と「ときどきある」(66.6%)を合わせて、83.2%があると回答している。

表3-2-14. 「子どもの悩みを聞き、相談にのることがありますか」

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答	合計
2013年	14.5	66.0	17.6	0.8	1.2	100.0
2018年	16.6	66.6	15.3	0.5	1.0	100.0

同じく親密性を示すと思われる感情表出は、その否定的な感情に関しては支援者としての専門性には抵触する。そうした両義的な設問であるが、「よくある」(1.2%)「ときどきある」(28.1%)を合わせ、29.3%があると回答した。

表3-2-15. 「子どもに対して、感情的に怒ったり泣いたりすることがありますか」

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答	合計
2013年	1.7	27.9	55.1	14.4	0.9	100.0
2018年	1.2	28.1	55.9	14.1	0.7	100.0

遊びの指導は、指導員の主要な業務の一つでもあるが、遊びは親密性を示す関りでもある。「よくある」(32.7%)、「ときどきある」(62.2%)と、あるという回答が94.9%を占める。

表3-2-16. 「子どもがうまく遊べるように指導することがありますか」

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答	合計
2013年	35.4	59.9	3.5	0.1	1.1	100.0
2018年	32.7	62.2	4.3	0.1	0.8	100.0

親密な関係性は、仕事の関係であったとしても付随的に生成し、それが結果的に仕事の効率を左右するものにもなる。それが感情労働であればなおさらであろう。そうした関係性が勤務時間を超えて継続することは、必ずしもよいとは言えないが、学童保育が「生活の場」とされているが故に勤務時間からはみ出してしまう可能性もある。表3-2-17は利用者である子どもやその保護者と、表3-2-18は指導員同士の関りについて尋ねた結果である。子どもや保護者との関りは「よくある」が3.9%、「ときどきある」が21.3%と肯定的な回答は25.2%であった。一方指導員同士ではそれぞれ5.7%、39.7%と、肯定的な回答は45.4%となった。それぞれ5年前からはやや減少傾向にある。

表3-2-17. 「勤務時間以外で、学童保育の子どもや保護者と関わるがありますか」

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答	合計
2013年	4.4	23.3	40.3	31.0	0.9	100.0
2018年	3.9	21.3	39.8	34.4	0.6	100.0

表3-2-18. 「勤務時間以外で、他の指導員と関わるがありますか」

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答	合計
2013年	8.2	46.4	33.1	11.4	0.9	100.0
2018年	5.7	39.7	39.8	14.1	0.6	100.0

具体的な子どもへの関わりについて、学童保育で行うべきと考えるかどうかを尋ねた結果が表3-2-19である。2013年調査と大きくは変化がないものの、「子どもとスキンシップをとること」「手作りのおやつを出すこと」「1日保育の際に、昼食をみんなで作ること」といった項目が減少傾向を示している(増加傾向は微少)。

表3-2-19. 「あなたは学童保育では子どもたちに対して以下のような取り組みを行うべきだと思いますか」

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
2013							
「ただいま」とあいさつすること	83.0	11.9	2.9	0.5	0.5	1.2	100.0
学校で決められたきまりを守ること	61.6	24.8	9.7	1.2	1.3	1.4	100.0
一日の流れを意識して活動すること	45.9	39.5	10.9	1.8	0.6	1.3	100.0
異年齢の関わる活動をすること	48.0	36.8	11.6	1.4	0.7	1.6	100.0
学校の宿題をすること	43.7	35.0	15.3	3.2	1.3	1.5	100.0

子どもとスキンシップをとること	50.7	31.6	13.6	1.5	1.1	1.5	100.0
子どもがごろごろできる時間・空間を作ること	36.2	36.2	19.3	4.3	2.5	1.5	100.0
子どもの好きな遊びを自由にさせること	32.4	39.1	22.7	2.9	1.3	1.7	100.0
目的・目標のある活動をさせること	33.0	39.4	20.9	3.3	1.7	1.7	100.0
長期間の見通しを持った継続的な活動をする	31.1	36.1	26.1	3.3	2.1	1.3	100.0
掃除を子どもたちがすること	25.6	39.3	24.1	5.6	3.9	1.6	100.0
スポーツや芸術活動に取り組むこと	14.1	32.1	36.1	8.7	7.6	1.4	100.0
子どもが指導員に対して敬語を使うこと	12.6	33.2	36.1	9.8	6.6	1.7	100.0
みんなで同じ遊びをすること	12.7	25.2	42.1	12.1	6.2	1.7	100.0
学童以外の子ども（友だち）と遊ぶこと	16.3	23.4	37.7	11.2	9.5	1.9	100.0
動植物の飼育・栽培をすること	10.1	25.7	39.0	12.3	11.1	1.7	100.0
手作りのおやつを出すこと	14.3	21.3	30.3	11.5	21.1	1.4	100.0
キャンプ等の行事に取り組むこと	9.5	17.0	37.7	13.4	20.8	1.6	100.0
一日保育の際に、昼食をみんなで作ること	6.2	15.1	32.7	18.4	25.9	1.7	100.0
2018							
「ただいま」とあいさつすること	77.9	15.9	4.2	0.8	0.4	0.6	100.0
学校で決められたきまりを守ること	56.7	28.0	11.9	1.9	0.7	0.8	100.0
1日の流れを意識して活動すること	46.8	40.4	10.1	1.5	0.4	0.8	100.0
異年齢の関わる活動をする	46.1	39.8	11.3	1.2	0.5	1.1	100.0
学校の宿題をすること	46.9	33.0	16.0	2.2	0.9	1.0	100.0
子どもとスキンシップをとること	42.3	36.0	17.5	2.7	0.5	0.9	100.0
子どもがごろごろできる時間・空間を作ること	37.1	38.0	17.6	4.2	2.1	1.0	100.0
子どもの好きな遊びを自由にさせること	33.0	40.3	21.2	3.2	1.3	0.9	100.0
目的・目標のある活動をさせること	30.4	43.8	20.0	3.8	0.9	1.1	100.0
長期間の見通しを持った継続的な活動をする	31.2	39.6	24.0	3.0	1.6	0.7	100.0
掃除を子どもたちがすること	25.3	38.4	25.9	6.4	3.0	1.0	100.0
スポーツや芸術活動に取り組むこと	13.3	35.3	36.1	8.3	6.0	1.0	100.0
子どもが指導員に対して敬語を使うこと	11.9	32.9	36.4	10.5	7.5	0.8	100.0
みんなで同じ遊びをすること	11.6	25.5	42.0	14.1	6.1	0.8	100.0
学童以外の子ども（友だち）と遊ぶこと	14.4	24.7	37.5	11.5	10.7	1.1	100.0
動植物の飼育・栽培をすること	8.4	24.8	40.4	12.7	12.8	0.8	100.0
手作りのおやつを出すこと	12.6	19.8	29.2	15.5	22.1	0.9	100.0
キャンプ等の行事に取り組むこと	9.2	17.1	37.4	14.1	21.4	0.9	100.0
一日保育の際に、昼食をみんなで作ること	5.3	13.0	31.3	21.0	28.3	1.1	100.0

学童保育としての取り組みについて尋ねた結果が表3-2-20である（いくつかの項目を入れ替えている）。

ここでも大きな変化は見られない。

表3-2-20. 「あなたは学童保育では以下のような取り組みを行うべきだと思いますか」

	そう思 う	どちらか といえば そう思う	どちら ともい えない	どちらかと いえばそう 思わない	そう思 わない	無回 答	合計
2013							
子どもの困った行動について専 門家と相談すること							—
保護者の子育てに関する相談	26.4	38.0	27.7	4.4	2.1	1.3	100.0
地域の施設等を利用すること	22.6	38.2	29.1	3.8	5.0	1.4	100.0
地域の他団体と交流すること	16.0	37.4	34.9	5.5	4.8	1.4	100.0
特別な支援を必要とする子ども を受け入れること							—
保護者同士が交流するための取り組み	19.4	32.2	33.8	7.5	5.9	1.2	100.0
他の学童と交流すること	17.4	27.4	35.6	9.4	9.1	1.0	100.0
児童の授業参観に行くこと	15.1	25.8	30.3	12.1	15.7	1.0	100.0
保護者が学童での保育に参加すること	13.5	24.8	38.2	13.0	9.4	1.1	100.0

児童の家庭を訪問すること	1.4	4.8	29.5	25.9	37.2	1.2	100.0
2018							
子どもの困った行動について専門家と相談すること	46.1	40.1	10.7	1.3	0.5	1.3	100.0
保護者の子育てに関する相談	26.9	42.4	24.7	3.2	1.8	1.0	100.0
地域の諸団体と交流すること	18.5	40.3	29.4	5.9	4.7	1.3	100.0
地域の他団体と交流すること							—
特別な支援を必要とする子どもを受け入れること	20.7	29.4	38.0	6.2	4.4	1.3	100.0
保護者同士が交流するための取り組み	17.4	31.1	38.2	6.9	5.1	1.3	100.0
他の学童と交流すること	15.3	31.3	33.8	9.8	8.7	1.2	100.0
児童の授業参観に行くこと	14.9	28.3	29.0	11.0	15.8	1.0	100.0
保護者が学童での保育に参加すること	10.6	24.6	41.6	12.4	9.9	0.9	100.0
児童の家庭を訪問すること	1.2	4.5	29.9	26.2	37.2	1.0	100.0

表3-2-21は、子育てに関する考え方を尋ねた結果である。「しつけは親がすべきである」とする意見への肯定的回答は多いものの、2013年と比較して大きく減少している。「子育ての責任は母親が中心に担うべきである」「放課後はできれば自宅に帰る方が望ましい」とする意見についても否定的な回答が増加している。

表3-2-21. 「子育てに関する考え方について、それぞれあてはまるところに○をつけてください」

	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	合計
2013							
しつけは親がすべきである	37.7	39.7	14.9	3.4	3.3	1.0	100
学童保育での保育は子どもの発達にとって必要である	15.6	28.4	44.3	6.4	4.0	1.4	100
放課後はできれば自宅に帰る方が望ましい	13.2	25.7	46.5	6.7	6.5	1.4	100
放課後はできれば子どもだけで遊ぶ方が望ましい	5.5	22.0	49.7	13.2	8.3	1.3	100
子育ての責任は母親が中心に担うべきである	11.5	19.0	32.1	14.4	21.6	1.5	100
家庭での保育よりも、学童保育での保育の方が優れていることが多い	2.1	6.6	57.0	15.4	17.9	1.1	100
学童保育を利用すると子育てが他人まかせになる	4.3	12.4	36.9	21.3	24.0	1.0	100
放課後は学習塾や習い事に行くことが望ましい	0.3	2.5	53.6	23.6	18.7	1.3	100
2018							
しつけは親がすべきである	25.3	44.0	20.1	4.9	4.2	1.5	100.0
学童保育での保育は子どもの発達にとって必要である	15.3	32.8	42.1	5.3	3.2	1.2	100.0
放課後はできれば自宅に帰る方が望ましい	9.7	24.4	49.1	7.9	7.5	1.4	100.0
放課後はできれば子どもだけで遊ぶ方が望ましい	5.8	23.8	48.2	12.9	8.1	1.3	100.0
子育ての責任は母親が中心に担うべきである	7.6	15.2	32.3	16.7	26.6	1.6	100.0
家庭での保育よりも、学童保育での保育の方が優れていることが多い	2.1	6.6	55.2	16.5	18.2	1.4	100.0
学童保育を利用すると子育てが他人まかせになる	3.9	12.2	35.8	23.6	23.3	1.2	100.0
放課後は学習塾や習い事に行くことが望ましい	0.2	2.4	58.9	21.5	15.7	1.3	100.0

学童保育はどこで行うことが望ましいのかを尋ねた結果が表3-2-22である。「学校敷地内の専用施設」とする回答が最も多く(60.0%)、3%増加した。

表3-2-22. 「学童保育は本来、どこで行うことが望ましいと思いますか」

	学校敷地 内の専用 施設	空き 教室	空き教室 以外の学 校施設	児童 館	保育 園・幼 稚園	地域の中 の専用 施設	地域の中 の民家・ アパート	そ の 他	無 回 答	合計
2013年	57.0	5.1	2.4	12.2	0.9	16.5	0.9	2.9	2.1	100.0
2018年	60.0	4.7	1.9	10.9	0.5	14.7	1.2	3.3	2.7	100.0

表3-2-23には望ましい子ども数と大人（指導員）数、表3-2-24はそこから算出した大人（指導員）一人当たり子ども数を示した。2013年と比べて、子ども数、大人数ともにやや多く答える割合が増加している。子ども数では30～39人が32.1%、大人数では3人が30.7%と最も多い区分となった。大人一人当たり子ども数はやや減少し、「5～9人」の区分が41.9%と最多となった。

表3-2-23. 「現在の学童保育の状況にかかわらず、子どもが放課後と一緒に過ごす集団として、子どもと大人（指導員）は何人程度が望ましいと思いますか」

子ども

	～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50人以上	無回答	合計
2013年	5.4	15.2	22.5	31.4	12.7	9.4	3.4	100.0
2018年	5.3	12.9	21.6	32.1	15.2	9.6	3.3	100.0

大人（指導員）

	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	合計
2013年	12.5	22.0	33.5	15.5	13.1	3.4	100.0
2018年	12.6	18.4	30.7	18.4	16.4	3.4	100.0

表3-2-24. 大人（指導員）一人当たり子ども数

	0～4人	5～9人	10～14人	15～19人	20人以上	無回答	合計
2013年	3.0	39.1	43.5	8.1	2.7	3.5	100.0
2018年	3.2	41.9	41.7	7.3	2.5	3.4	100.0

本研究はJSPS 科研費 16K01869 の助成を受けたものです。

大谷直史（鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構教員養成センター）

柿内真紀（鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構教員養成センター）

石本雄真（鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構教員養成センター）

¹ 行政的には「放課後児童クラブ」、また地域によっては「学童クラブ」「育成室」等様々な名称があるが、制度的に認定されていない放課後支援組織を含めることや、これまで全国的に使われてきた経緯を踏まえて、ここではそれらの総称として「学童保育」とした。また学童保育で働く人も、「支援員」という呼称が用いられてつづつあるが、従来からの使用に倣い「指導員」という呼称に統一している。

² 「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第63号）。

³ 未だ耳慣れない言葉であるが、従来は家族という組織・制度が排他的に有していた親密な感情のやりとりを、家族以外の関係性にもそれが有り得ることを積極的に示す言葉として使用している。よく紹介される定義は、「具体的な他者の生/生命——とくにその不安や困難——に対する関心/配慮を媒体とする、ある程度持続的な関係性を指すもの」（齋藤純一『親密圏のポリティクス』p.213）というものである。

⁴ 学童保育リストは、全国およそ25000カ所と比べれば8～9割、支援の単位数と比べれば7割程度の捕捉率となる。主に市町村のホームページを参照しているため、未更新の場合や、そもそも掲載されていないケース、支援の単位が明確でないケース、補助金等の支出がなければ掲載されていないケース等が考えられる。こうした方法と回収率を考えれば、今回の調査がどれほどの代表性を確保できているのか心もとないのであるが、別稿にて厚生労働省、全国学童保育連絡協議会の実施する全国調査と比較検討する予定である。